

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 (漢文は文学部のみ)	試験時間	80分
-----	----------------------------------	------	-----

<p>総括 (ポイント・変化など)</p> <p>一 江戸時代に天体の運動についての概念が受容された経緯を、それに貢献した人物の功績とともに考察した評論文からの出題。文章自体は魅力的な内容であるが、複数の設問で正解を明確に決定しがたく、戸惑った受験生もいたと考えられる。</p> <p>二 文学作品について、「物語」「ストーリー」を先へとたどって楽しむのとは異なり、時代の変化に応じた作品の形式や表現方法そのものに着目して読むことの意義を主張した評論文からの出題。 文学史問題は出題されなかった。</p>
--

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	『江戸の宇宙論』(池内了・評論)	「言葉の形を読む」(戸塚学・評論)
頻出度合 ・的中等	2023年 同志社大学 (2/7) にて出題あり	
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ <u>変化なし</u> ・やや増加・増加) 約 4700 字 前年度約 4600 字	分量 (減少・やや減少・ <u>変化なし</u> ・やや増加・増加) 約 4200 字 前年度約 4000 字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	記述式	標準	漢字の読み取り「敬(うやま)」「軋轢(あつれき)」
		問2	記述式	やや難	漢字の書き取り「昇格(ショウカク)」「遜色(ソンショク)」
		問3	マーク式	標準	脱落した一文を本文に挿入する問題 脱落文の「これ」と「窮理学」という表現を手がかりに、挿入箇所の前後の文脈を捉える。
		問4	マーク式	標準	空欄に適切な語句を補充する問題 空欄直後の「観測結果と矛盾しないよう工夫をした考察」により「1 空想的」が排除され、「論理的な考察ではなく、いかにも間に合わせの議論」をふまえて「2 恣意的」を選ぶ。
		問5	記述式	標準	傍線部に関わる内容を、解答欄に合うように本文中から抜き出す問題 (二十五字以内) 第5段落の「太陽が中心にあって、その周囲を回転する地球という描像(=地動説)の下で、[私たちの世～視する視点]に到達した」という記述に着目する。
		問6	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 (二つ選ぶ) 選択肢3「蘭学の面白さ」については、「窮理学としての蘭学の面白さ」(第8段落)と捉えるならば正解となる。選択肢7は、「江漢自らが学び開発・完成させたエッチング」が気になるが、〈江漢が、大槻の助けを得ながらも、「自ら開発し」(第10段落)、「技法を学んで完成させた」(第7段落)エッチング〉と解釈した場合には正解となる。選択肢6は、全体の内容は適切と言えるが、「急増させた」が、「少しずつ増えていった」(第10段落)という記述と合致しがたい点が気になる。 以上のように、複雑な解釈を要するため、受験生は困惑したと考えられる。
		問7	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 傍線部の「吝かではなかった」が〈ためらいなく、喜んで～する〉という意味であることをふまえる。選択肢4の冒頭の「絵師として」という文言は本文の内容をふまえるならば不要と考えられ、この点に疑問を抱いた受験生がいたと想定される。
		問8	マーク式	標準	空欄に適切な語句を補充する問題 選択肢6「受け売り」は正解となりうるが、2「橋渡し」を明確に排除する理由を見出しがたい。
		問9	マーク式	標準	空欄に適切な語句を補充する問題 〈ニュートン力学の入門書の翻訳は、物理学的概念に不慣れた人間にはC理解できない〉という文脈をふまえ、適切な慣用句である選択肢5を選ぶ。
		問10	マーク式	標準	本文の内容に合致するものを選ぶ問題 (一つ) 正解4の内容は、第11段落に見出される。

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	評論	問1	マーク式	標準	脱落した一文を本文に挿入する問題 脱落文の〈見えてくる言葉自体〉が、第6段落末尾の〈それ(=ストーリー)とは異なって私たちの意識の前面にせり出してくるもの〉に該当するということを理解する。
		問2	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 傍線部「楽しみのための普段の読書」が〈物語・ストーリーをたどる読書〉であることをふまえ、それとは「異なった」「言葉の形」や「語り方」を重視する読み方が述べられた選択肢を選ぶ。
		問3	マーク式	標準	空欄(3箇所)に適切な語句を補充する問題(3つの組み合わせ) 「ロングショット(遠距離・俯瞰)」「クローズアップ(接写・大写し)」「カット(一場面)」の意味をふまえる。
		問4	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 選択肢3は、最終段落の文脈と傍線部の記述内容をふまえているが、〈～だけではなく～〉という表現が、〈～ではなく～〉という傍線部の論理と異なっている点に疑問が生じる。選択肢2は、〈～ではなく～〉という論理はふまえられており、後半の内容も文章全体を通じた筆者の主張には適うが、直前の文脈からは遊離している点が気になる。
		問5	マーク式	標準	本文の内容合致問題(一つ) 正解4は、第9・11段落の内容をふまえている。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

- 基本的な言葉の知識が問われる問題の出来がきわめて重要である。日頃から漢字、語句の意味内容、文学史などの知識をおろそかにしないで学び、知らない言葉に出会った場合にはまめに辞書を引いて語彙力を養っておこう。
- 評論を中心に様々なジャンルの文章を読み、問題演習を積み重ねておこう。本文全体の趣旨を正確に把握するとともに、部分的な内容を文脈に即して的確に読み取るといった基本的な読解力の養成が必要となる。
- 常に手と目を意識的に用いて本文に根拠を求め、解答の吟味をしっかりと行うようにしよう。

国語(現代文・古文・漢文) 立命館大学 全学統一方式 (2/2実施) 4/6

<総括>

出題数	現代文 2 題・古文 1 題・漢文 1 題 (漢文は文学部のみ)	試験時間	80 分
-----	-------------------------------------	------	------

・長文が課される本学の特徴通りの出題である。作者の心情を著した箇所なので、細部の読解にはやや苦勞したろう。

・設問数は昨年度より 1 題増えたが、総解答数は 2 つ減少している。

・記述式現代語訳は昨年度からの字数制限 (〇〇字以内) が踏襲されている。

・助動詞の意味を問う設問は、今回は複数の助動詞の組み合わせを答える問題となったが、標準レベルだった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『紫式部日記』
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約 1430 字 (昨年度 1540 字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

5 / 6

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
三	日記	問1	マーク式	標準	<p>文法。①「にたる」②「にし」③「れじ」④「ざりき」の文法的説明を選ぶ。③は文脈から意味を考える。</p> <p>空欄補充。作者に対する女房の陰口に当たる名詞を補充する。「むかしは経読むをだに人は制しき」と続くことに着目する。</p> <p>解釈。「思ひぐまなきやうなり、ことはたさもあり」の意味を選ぶ。断定の助動詞「なり」が連用形になっていることと連語「さもあり」に着目する。併せて、直前の「物忌みける人の～見えぬためしなりと、いはまほしくはべれど」を踏まえることがポイント。</p> <p>現代語訳。①「行ひがちに」を十字以内、②「うるさければ」を八字以内で現代語訳する。①は「行ひ」の訳出と接尾辞「がちに」の訳出、②は「うるさし」の訳出がポイント。④の「～がちなり」に関しては、普段の学習で訳出した経験に乏しい受験生が多かったと想像される。</p> <p>説明。作者の「わが心とならひもてなしはべる有様」がどのような態度であるかを選ぶ。3行前の「ほけしたる人にいとどなりはててはべれば」に着目する。</p> <p>説明。作者が「人よりけにむつまじうなりにたる」理由を選ぶ。「かうは推しはからざりき。…」で始まる作者に対する人々の発言を踏まえるのがポイント。</p> <p>説明。「恥ぢられたてまつる人」の説明を選ぶ。受身の助動詞と謙譲の補助動詞が複合した表現「られたてまつる」がポイント。</p> <p>内容合致。本文に合致するものを選択肢六つから二つ選ぶ。</p>
		問2	マーク式	標準	
		問3	マーク式	標準	
		問4	記述式	標準	
		問5	マーク式	標準	
		問6	マーク式	標準	
		問7	マーク式	やや難	
		問8	マーク式	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・教科書に採録されているような有名作品からの出題も比較的多く、そのような出題の場合には背景知識の有無が合否の境目になる。対策として、教科書・問題集・便覧などを通じて作品全体のあらすじや内容、また主な登場人物などは知っておく必要がある。
- ・その一方で、受験生になじみの薄い稀な出典から出題されることもある。過去問題や問題集を通じて、できるだけ様々な文体の文章に慣れておきたい。
- ・重要古語・古典常識・文学史などの知識問題や文法説明は立命館大学の古文の一つの特徴でもあるので、徹底的に学習しておきたい。
- ・物語や日記の場合には、登場人物の把握、主体判定などをおこないながら丹念に読解するなかで、人物の心情や、場面の細部まで把握する学習が必要である。随筆や歌論などは、話題になっている事柄を把握したうえで、筆者の姿勢や主張を明確にする読解の練習をしておきたい。

国語(現代文・古文・漢文) 立命館大学 全学統一方式 (2/2実施) 6/6

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	80分
-----	--------------------	------	-----

『西清詩話』には、南唐の三代目君主李煜がちょうど春の景色を長短句(=詞)に詠んでいた時に北宋の攻撃を受けて都金陵が陥落したため、その作品は未完に終わり、心があやうく苦しかったためにその文字が乱れていると記されている。これについて筆者は、史書の記録によると、南唐の都金陵が陥落したしたのは十一月であり春ではないので、春の景色を詠んだ長短句(=詞)を都が陥落したために李煜が完成させられなかったという記述は誤りではないかという疑問がある。しかし北宋軍の金陵包囲は約一年に及んだので、その間の春に李煜がこの作品を作ったかもしれないし、それは定かではないにしても、李煜の悲痛な心情が読み取れるのは確かであると述べた詩話である。昨年度の文章同様読み取りやすい。設問数は昨年と変わらず4問。語の読み、空欄補充、書き下し文、内容合致という問いも昨年度と同様であった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	北宋・胡仔『苕溪漁隱叢話』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) 217字(昨年度184字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	詩話	問1	記述式	標準	語の読みの問題。「若(もし)」「于(おいて)」の読み。書き下し文の問題。「乃(すなはち)」の用法と「決非～」の表現に注意し、文の構造と文意を考えて訓読し、判断する。 空欄補充の問題。空欄を含む一文の意味を文脈から読み取り、空欄に「間違っている」という意味の語が入ることを判断する。 内容合致の問題。文章の流れを正しく読み取って判断する。
		問2	マーク式	標準	
		問3	マーク式	やや難	
		問4	マーク式	やや易	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず漢文の基本語、基本句形を習得する。書き下し文の問題では、傍線部は白文で出題されるので、漢文の語順に習熟するとともに返り点や送り仮名を正しく付けられる力を身につけることが必要。本文全体の内容が試されるので、多くの文章に触れて読解力を養成することも必要である。二百字前後の文章が出題されるので、長文に慣れておくこと。